

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 1 月 17 日作成)

小委員会名	環境振動測定分析小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)	
設置期間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・2013 年度 前小委員会の結果を有効活用し、振動測定に関する実務者のアンケート結果をまとめ、測定・分析の現状を把握する。前小委員会で測定した振動測定データから測定・分析の検討を行う。</p> <p>・2014 年度 前小委員会からのデータも含め、本小委員会で提案する「建築空間の環境振動に関する測定・分析方法のマニュアル」(仮題)の作成を行う。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有	
	主査：富田隆太(日本大学) 幹事：小谷朋央貴(フジタ) 委員：石橋敏久(鹿島)、伊積康彦(鉄道総研)、足立大(リオン)、神谷俊行(ベネック振動音響研究所)、佐野泰之(愛知工大)、松田貫(大和ハウス工業)、平松和嗣(NTTファシリティーズ総研)、原田浩之(三井住友建設)、藪下満(YAB 建築・音響設計)、横島潤紀(神奈川県)、尻無濱昭三(鉄建建設)、平光厚雄(国土技術政策総合研究所)、森川和彦(清水建設)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2014 年度予算	40,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 小委員会で検討してきた木造住宅の振動測定方法についての検討結果を技術報告集に投稿し掲載された。また、同様に小委員会で検討した振動測定に関する結果を日本建築学会大会及び日本騒音制御工学会研究発表会に発表した。 2. 建築物の環境振動に関する測定・分析のマニュアル案の構成について検討した。
委員会活動の問題点 ・課題	

2014 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・**最終年度評価**)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現状の測定方法及び分析方法の問題点の抽出を行うための技術者を対象としたアンケート調査の分析を行い、日本建築学会大会に 2 件(2013)、日本騒音制御工学会に 1 件(2014)に投稿した。 2. 在来鉄道の高架化前後で、線路の直近に位置する木造アパートを対象に振動特性と家屋増幅量の分析を行い、日本建築学会技術報告集(2014)に掲載された。 3. 木造家屋の振動測定方法について人が及ぼす影響について分析を行い、日本建築学会大会(2014)に投稿した。 4. 建築物の環境振動に関する測定・分析のマニュアル案の構成、方向性について検討した。 5. 振動測定に関する例題(人の歩行や鉄道による振動測定等)をアンケートとして作成し、振動測定経験者に対して実施した。 			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。